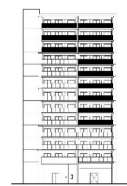


CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サムティ東大阪市足代新町	階数	地上13F
建設地	大阪府東大阪市足代新町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	144 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年1月12日
敷地面積	797 m ²	作成者	株式会社星羅建築事務所 永崎
建築面積	367 m ²	確認日	2024年1月15日
延床面積	4,107 m ²	確認者	井上 光輝



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 内装はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用し、防汚性の高い建材・仕上げ材を採用しており、LED照明器具の採用など、環境に配慮した計画をしている		特にありません。
Q1 室内環境 化学汚染物質の抑制に配慮している。	Q2 サービス性能 給排水管の使用管材の耐久性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の緑化に努めた。
LR1 エネルギー 照明設備にLED照明を採用し、環境負荷が低減できるように配慮した。	LR2 資源・マテリアル リサイクル資材を極力使用している。	LR3 敷地外環境 道路境界側にできる限り緑化を設け敷地外からの環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)サムティ東大阪市足代新町 新築工事					
建設地		大阪府東大阪市足代新町					
用途/区分		集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			4	
④	エネルギー消費性能					5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			2	
		評価対象外				評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目		評価内容				スコア	評価
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮				3.3	3
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出				2.0	2
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	4
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化				5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用				2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項		
特に配慮した事項							